

#1 人類歴史の中の神の行動は神の永遠のエコノミーを完成するためである **BEV** 2/20-26 | 旧約の十二巻の歴史書(ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記上と下、列王紀上と下、歴代志上と下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記)の内在的な意義が啓示しているのは、人類歴史の中の神の行動が、神が人と成り、人が命と性質において(神格においてではなく)神となることによって、神が道を用意してご自身の永遠のエコノミーを完成し、キリストの有機的なからだとしての召会を生み出し、建造し、新エルサレムを究極的に完成して、彼の究極の表現とならせることであるということです **A** 私たちは旧約の十二巻の歴史書を、神の永遠のエコノミーに結び付けなければなりません。聖書は実は、ただ一つの事、神の永遠のエコノミーを告げています。それは神の大いなる喜び、すなわち、神の心の願いに基づいています。これら十二巻の歴史書が神の神聖な啓示の中で書かれたのは、私たちに警告し、照らすためです。 **エペソ1:4** すなわち、この方は、愛の中で、御前に聖く傷のない者になるようにと、世の基が置かれる前から、キリストの中で私たちを選び。 **B** 神の永遠のエコノミーを完成して(彼の法理的な贖いの手続きと彼の有機的な救いの目標をもって)、私たちが彼の花嫁として用意を整えて彼の再来をもたらすことは、今日の世界情勢の問題を解決する唯一の道です。これが神の心の願いであり、彼はその事を完成します。 **C** 主の二度目の来臨はこの世のすべての問題を解決します。それは不正、戦争、病、飢きん、教育、犯罪機構、全被造物の苦しき、地上の政権です。 **啓11:15** 第七の御使いがラツパを吹いた。すると、天に大声があつて言った、「世の王国は、私たちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」。 **II** ゼカリヤ書が啓示しているのは、人類歴史の中の神の行動の極めて重要な点と主要な内容が、キリストの二度の来臨であつて、それはイエスの証し、神の建造のためであるということです **A** ゼカリヤ書9章~11章は、キリストの卑しい中で一度目の来臨について語っており、それはへりくだった親密なものでした。 **1** キリストは義なる方法で神の民の救いのために王として来ましたが、卑しい王、へりくだった王として来て、威厳ある馬に乗ったのではなく、ろばに、子ろばにさえ乗りました。これはイエス・キリストが最後の時にエルサレムに入ってきたときに成就されました。 **ゼカリヤ9:9** シオンの娘よ、大いに喜び。エルサレムの娘よ、叫べ! 見よ、あなたの王があなたに来られる。彼は義であり、救いを担い、卑しくなつて、ろばに乗られる。それも、ろばの子である子ろばに。 **2** キリストは嫌われ、攻撃され、拒絶されて、彼の弟子の一人によって銀三十枚、す

なわち、奴隷の値で売られました。ここで予言されていることは、福音書で成就されました。 **3** キリスト、エホバの仲間は、神の遣わされた牧者としてイスラエルの子たちに来ました。キリストは人として、イスラエルの子たちの親族であり、またエホバの仲間でした。彼は牧者として打たれ、彼の弟子たちは羊として散らされました。 **4** キリストはイスラエルの家において、十字架上で傷つけられましたが、「私を愛する者の家で傷つけられたものだ」と言いました。イスラエルの子たちはキリストを殺しましたが、この甘い言葉の中で、キリストは彼らの行動を、彼を愛する者からの傷と認めています。 **5** キリストの脇は突き刺されました。そして彼は罪と汚れを清める一つの開かれた源泉となりました。 **ゼカリヤ13:1** その日には、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れを清める一つの開かれた源泉がある。 **B** ゼカリヤ書12章~14章は、キリストの勝利における二度目の来臨について語っています。それは力と権威を伴っています。 **1** キリストは二度目に、彼の聖徒たち、すなわち、勝利者たちを伴って来ます。 **2** 彼の足は、エルサレムの東側の前にあるオリブ山の上に立ちます。 **ゼカリヤ14:3** その時、エホバは出て行って、戦いの日に戦うように、それらの諸国民と戦われる。 **4** その日、彼の足はエルサレムの東側の前にあるオリブ山の上に立つ。そしてオリブ山はその真ん中で東と西に裂けて非常に大きな谷となり、その山の半分は北へ、他の半分は南へ移る。 **3** 彼は神の選ばれた民であるイスラエルの子たちのために、彼らを包圍する諸国民と戦い、彼らを破壊から救います。 **4** その時、イスラエルの全家は、自分たちが突き刺した方を仰ぎ見て、彼のために嘆きます。こうして、全イスラエルは救われます。 **5** その後、彼は王となって支配し、諸国民を治めます。すべての民は年ごとにエルサレムに上つて来て彼を礼拝し、みな彼へと聖別されま

す。 **6** 「エホバは全地の王となられる。その日には、エホバはただひとり神であつて、彼の御名もただ一つの名である」(ゼカリヤ14:9)。 **III** すべてを含むキリストは、人類歴史の中の神の行動の歴史であり、神の現れのために神の建造を得ます **啓19:7** 私たちは喜び歡喜し、彼に栄光を帰そう。小羊の婚姻の時が出来て、彼の妻は用意を整えたからである。 **8** 彼女は輝く清い細糸の亜麻布の衣を着ることを許された。その細糸の亜麻布の衣は、聖徒たちの義である。 **14** ...天にある軍勢が白い馬に乗り、白くて清い細糸の亜麻布を着て彼に従つた。 **A** キリストは巧みに働いて、人類歴史の中の世界情勢を主権をもって制御するとき、神聖な歴史の中でご自身を巧みに私たちの中へと造り込んで、私たちに彼の働きの傑作、神の詩、神の新しい發明とし、彼の無限の知恵と神

聖な設計を表現します。Bキリストは、彼の人性においてエホバの御使い、すなわち三一の神としてのエホバご自身であり、神の民と共に、彼らの屈辱の中で谷の最も低い部分に立って、彼らを顧み、彼らのためにとりなし、彼らを素早くバビロンの捕囚から連れ出します。ゼカリヤ1:8...一人の人が赤い馬に乗っていた。彼は谷底にあるミルトスの木の間に立っており、...Cキリストは、神に用いられて四つの角を砕く最後の職人です。四つの角は四つの王国とその王たちであり(バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ、ローマ帝国)、それらはダニエル書2:31~33の大きな人の像の四つの部分、ヨエル書1:4の四つの段階のいなご、ダニエル書7:3~8の四頭の獣によっても表徴されており、神の選ばれた民を害し、破壊しました:ゼカリヤ1:20その時、エホバは私に四人の職人を見せられた。21...「四つの角はユダを散らし...たが、それらの職人が来たのは、...ユダの地に対して角を上げて追い散らした諸国民の角を投げ落とすためです」。1四人の職人は、神に用いられる技巧であり、これら四つの王国とその王たちを滅ぼします。初めの三つの王国はそれぞれ(バビロン、メド・ペルシャ、ギリシャ)、それに続く王国によって技巧ある方法で取って代わられました。2第四の職人は、人手によらずに切り出された石としてのキリストであり、彼は戻って来るとき、復興されたローマ帝国を砕き、こうして人類の政権の集大成としての大きな人の像を砕きます。3この石が表徴するのは、個人のキリストだけでなく、団体的なキリスト、すなわちキリストと彼の「勇士たち」でもあります。D団体的なキリスト、すなわち、キリストと彼の勝利を得た花嫁は、石として来て、人類の政権の集大成を打ち砕き、神の王国をもたらします。Eダニエル書2章は、人手によらずに切り出された一つの石として来るキリストについて語っています。啓示録19章は、彼の軍隊としての彼の花嫁を持つ方として来るキリストについて語っています。IVエペソ5章と6章は、召会が花嫁また戦士であることを啓示しています。啓示録19章にも、召会のこれら二つの面がありますA私たちは神聖な歴史の中で、すなわち、人類歴史の中の神の行動の中で花嫁となるために、神の美しくする言葉を必要とします。また私たちは神聖な歴史の中で、すなわち、人類歴史の中の神の行動の中で戦士となるために、神の殺す言葉を必要とします。Bキリストは彼の婚宴の日に、彼の花嫁と、長年神の敵に対して戦ってきた勝利者と結婚します。Cキリストは地上に下って来て、反キリストと人類の政権の総合計を対処する前に、婚宴を持ち、彼の勝利者たちを彼ご自身に結合させて一つの実体とならせます。Dこういうわけで、その霊としてのキリスト、すなわち、手順を経て究極

的に完成された三一の神は、花嫁としての召会、すなわち、手順を経て造り変えられた三部分から成る人と結婚します。E彼は婚宴の後、彼の結婚したばかりの花嫁と共にやって来て、反キリストを滅ぼします。この反キリストは彼の軍隊と共に、直接、神と戦います。1主イエス、すなわち、神の言は、彼の口の息によって反キリスト、すなわち不法の者を殺します。また彼はご自身の来臨の出現によって、反キリストを無にもたらしめます。2キリストの口からは鋭い剣が突き出ており、彼はそれをもって諸国民を打ちます。F人類の政権を打ち砕いた後、神は全宇宙を一掃します。その後、団体的なキリスト、すなわちキリストと彼の勝利者たちは、大きな山となって、全地を満たし、全地を神の王国とします。V人類歴史の中の神の行動を完成して神の永遠のエコミーを完成する道は、私たちの霊を活用して、キリストを七倍に強化された霊として経験し、享受することですAゼカリヤ書1:3は言います、「私に帰れ、万軍のエホバは告げられる。そうすれば、私はあなたがたに帰ると、万軍のエホバは言われる」。私たちは霊を活用し、心を尽くして主に帰る必要があります。このことは、私たちがまず主に帰らなければならず、それから主が私たちに帰るという原則を確立します。Bゼカリヤ書12:1は言います、「イスラエルについてのエホバの言葉の託宣。天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる」:1神は彼の創造において、三つのかぎとなる、等しく重要な項目を造りました。それは天、地、人の霊です。2天は地のためであり、地は人のためであり、人は神によって霊のあるものに創造されました。それは人が神と接触し、神を受け入れ、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を完成し、神と一となるためです。3人の存在の中央政府であり最も重要な部分は彼の霊であるべきです。自分の霊によって支配され統治されている人は霊の人です。4ゼカリヤ書は、私たちの人の霊に完全な注意を払うよう私たちに命じています。それは、私たちがこの書に啓示されているキリストを受け入れ、彼に関してその中に啓示されているすべてのことを理解するためです。C私たちは以下の各面において、キリストを七倍に強化された霊として享受する必要があります。V人類歴史の中の神の行動(神聖な歴史)の中には新創造があります。それは新しい人であり、新しい心、新しい霊、新しい命、新しい性質、新しい歴史、新しい終結を持っています。主を賛美します。私たちは神聖な歴史の中で、奥義的で神聖な事柄を経験し、享受しています。それは私たちの有機的な救いのためであり、それによって私たちは用意を整えて、勝利を得た彼の花嫁となって、彼の再来をもたらすことができます

CP1 神の養う言葉と殺す言葉を経験して、人類歴史の中の神の行動の中で、花嫁また戦士となる

IVA 私たちは神聖な歴史の中で、すなわち、人類歴史の中の神の行動の中で花嫁となるために、神の美しくする言葉を必要とします。また私たちは神聖な歴史の中で、すなわち、人類歴史の中の神の行動の中で戦士となるために、神の殺す言葉を必要とします。エペソ5:25 夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛しなさい。26 それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためであり、27 またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです。6:17 また救いのかぶとを受け取りなさい。さらにその霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、18 すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい。

私たちは召会として、からだ、神の住まい、神の王国、神の家族、新しい人であるだけでなく、花嫁また戦士でもあります。花嫁として、私たちは美しくあって、しみやしわがなく、細糸の亜麻布を着ていなければなりません。戦士として、私たちは神の敵と戦うよう装備されていなければなりません。

自己は最大の敵であるので、私たちは神の言葉の殺す力を経験する必要があります。私たちは祈り読みする時、一方で養われますが、もう一方ではある要素が殺されます。おそらく、あなたは疑い、憎悪、ねたみ、高ぶり、利己的なことで悩まされているでしょう。あなたはこれらの事が、言葉の祈り読みを通して殺されることができていることを認識しているでしょうか？ 殺す力のある言葉を受け取れば受け取るほど、私たちの内側の高ぶりやすべての消極的な要素は、ますます死に渡されていきます。祈り読みによって、内側の内敵はほふられます。言葉の祈り読みの時の後、私たちを攻撃していた内敵が消えてしまったことを発見するでしょう。とても実質的な意味で、私たちが取り入れた言葉によって、彼はほふられたのです。

エペソ5章で、言葉は養いのためであり、花嫁を美しくします。しかしエペソ6章で、言葉は殺すためであり、団体の戦士としての召会が、霊的な戦いに従事することができるようにします。

適用: 青少年・大学生、新人編

証1 集会所で祈り読みをする兄弟姉妹を初めて見たとき、私はとても驚きました。御言葉を短く区切って他の人と繰り返し声に出して読んで祈ることをしたことがなかったからです。正直に言うと、とて

も奇妙だと感じました。けれども、祈り読みする兄弟姉妹は生き生きといて、魅力的でした。ですから、私も取りあえず真似してみることにしました。最初は違和感を持って始めた祈り読みですが、何度も繰り返すうちに御言葉が味わい深くなるのを実感するようになりました。祈り読みの後、兄弟姉妹と共に御言葉を享受する喜びがあるのです。こうして、祈り読みを奇妙だと感じた私の中の古い人は対処されました。朝ごとに、また集会で祈り読みによって新鮮にされる私たちは幸いです。眠い時も、疲れていても兄弟姉妹と一緒に祈り読みをすると内側の霊が活性化されるのを感じます。兄弟姉妹と一緒に御言葉を祈り読みする環境が私たちに与えられていることを主に感謝します。

証2 台湾で訓練に参加した時に、ある授業で創世記一章一節を祈り読みするように言われました。リー兄弟の祈り読みの文章を読むと光に満ちていましたが、私はただ繰り返し読んでいただけで、あまり感覚がありませんでした。その時、余力兄弟の証しを思い出しました。余力兄弟はリー兄弟のメッセージを読んで、リー兄弟が御言葉を喜んでいるのに、自分は全く喜びを感じていないと気付いた時、主に「何故リー兄弟のように喜べないのでしょうか」と尋ねました。私も余力兄弟を真似して主に「おお主イエスよ、リー兄弟のように、この言葉が私にも解き放たれて、光で満ちますように、享受がありますように」と祈りました。このように祈った後、再び同じ御言葉を祈り読みしてみると、内側の緊張、開いてないこと、形式などの消極的なものは殺され、内側から甘さが出て来て、とても享受して、喜びがありました。祈り読みの最後に喜びがあふれて、主に賛美をささげました。御言葉の祈り読みによって、内側の自己からの消極的な感覚が殺され、他の訓練生とともに台湾の各地で大胆に福音を伝え多くの人々が救われました。

その後すぐにコロナパンデミックが始まりました。私たち召会は、人類歴史においてコロナパンデミックの黒い死の馬が走る時、神の行動である福音の白い馬を加速させました。私は召会の中でこの福音の戦士として戦うために、御言葉を祈り読みして、疑い、高ぶりなどを殺すことが重要であると証しできます。**祈り** おお主イエスよ、私は神聖な歴史の中で、すなわち、人類歴史の中の神の行動の中で花嫁となるために、神の美しくする言葉を必要とし、また戦士となるために、神の殺す言葉を必要とします。殺す力のある言葉を受け取れば受け取るほど、私の内側の高ぶりやすべての消極的な要素は、死に渡されていきます。御言葉の祈り読みにより、私を養い、戦士として装備してください。

CP2 自分の霊を活用してキリストを七倍に強化された霊として享受し、神の行動を完成する

V 人類歴史の中の神の行動を完成して神の永遠のエコノミーを完成する道は、私たちの霊を活用して、キリストを七倍に強化された霊として経験し、享受することです

c1 キリストは彼の手に測り縄を持つ人であり、神の民を測ります。それは、彼の王国のために彼らをテストし、裁き、試験し、所有するためです。

2 「私はそれを取り巻く火の城壁となると、エホバは告げられる。私はその中で栄光となる」(ゼカリヤ 2:5)

a エルサレムの都の城壁とその中の栄光は、エホバご自身です。これはキリストとしてのエホバがエルサレムの周囲の保護となり、エルサレムの中心の栄光となることを示します。これはキリストが神のエコノミーの中心性と普遍性であることを見せています。

b 今日キリストは召会の中心の栄光であり、彼はまた保護のために召会の周囲で燃える火です。新エルサレムで、キリストにある三一の神はその中心の栄光であり、この栄光は都の透明な城壁を通して輝き、その保護の火となります。

3 キリストは万軍のエホバに遣わされた方であり、また遣わす方、万軍のエホバでもあって、彼の民を顧みます。彼の民は彼にとってとても尊く、彼らに触れる者はだれでも、彼の目の瞳に触れるのです。

4 キリストは牧者として来て、二本の杖で羊の群れを牧養しました。一本は恩恵(恵み)と呼ばれ、他の一本は結びと呼ばれました。恵みは、私たちが神とミングリングされるためであり、結ぶことは、私たちが結ばれて一となるためです：

a 主が私たちに対してとても恵み深いとき、私たちは彼に、さらに恩恵を、さらに恵みを、さらに「雨」を私たちに遣わしてくださるようにと求めるべきです。

b 牧者としての主によって訪れられた後、神の民の間のあらゆる弱い羊は威厳のある馬となります。

c しばしば私たちの朝の復興の時、主は私たちに口笛を吹いて、私たちを召し、彼に集めます。主の口笛はけたたましいものではなく、温和で柔和で、鳥の歌のようなものです。

ゼカリヤ 10:8 私は彼らに口笛を吹いて彼らを集める。私が彼らを贖ったからである。彼らはかつて増し加わったように増し加わる。

d 主は私たちをご自身の中で増強して、私たちが彼の御名にあって行き巡るようになります。しばしばそのような愛の訪れを享受した後、私たちの状態は変化します。彼の訪れの中で、彼はさらに祝福を求めるよう私たちを励まします。...私たちは大胆ではなく強くありませんが、主の愛の接触を伴う訪れの後、私たちは力づけられ、戦いにおける威厳ある馬となります。

適用:ビジネスパーソン、大学院生編

啓1:4 ...今おられ、昔おられ、やがて来ようとしておられる方から、また彼の御座の前の七つの霊から、

FN七つの霊 七つの霊は、疑いもなく神の霊です。...七は神の活動における完全な数ですから、七つの霊は、地上における神の動きのためでなければなりません。本質と存在においては、神の霊は一ですが、神の運行の強化された機能と働きにおいて、神の霊は七倍です。...本書が書かれた時、召会は墮落して、時代は暗くなっていました。ですから、神の七倍に強化された霊が、地上における神の動きと働きのために必要でした。

証 私は七倍に強化された霊を、現実のビジネスライフで経験するのは、決して難易度の高すぎることではなく、心を主に向け、霊を活用するだけで、経験し、享受することができることを証します。

私は宗教観念に占有されていて、七倍に強化された霊について聞くと、集会では経験できても、現実のビジネスライフでは、無意識の内に、私が七倍に頑張るべきであると解釈していました。そして、私が頑張れば頑張るほど疲れるので、いつまで頑張ればいいのかと考え、不安になりました。そして、度々、これ以上頑張れないのではないかと感じ、将来について不安になることがありました。実際、一生懸命頑張っても、あまり効果がありませんでした。このようにもがいている時、主が私を憐れんでくださり、次のように語ってくださいました、「愚かな人よ、私は七倍に強化された霊である。あなた自身があなたの努力を七倍に強化する必要は一切ないし、それはできない。ただ、心を私に向け、自分の霊を活用して、私の七倍に強化された霊を経験し、享受しなさい」。その後、私は自分が弱いと感じた時に、次のように祈るようになりました、「おお主イエスよ、私は弱くても、特に焦ったり、もがいたりする必要は一切ありません。私はただ、心を主に向け、霊を活用し、思いを霊に付けるだけです。そうすれば、私は七倍に強化することができます」。このように祈ることで、忙しいビジネスライフの中でも、私の霊は七倍に強化され、燃やされました。霊が燃やされて仕事をすると、仕事において前進できましたが、同時にサタンの攻撃も激しさを増しました。それに対して私は以下のように宣言しました、「悪魔サタンよ、私は主の中の人、キリストのからだの肢体である。お前に命じる、ここから出ていけ!」。私の秘訣は、召会生活をしっかり保持する中で、ビジネスライフでもサタンからの攻撃を発見したら、祈ってサタンを退けることです。敵が退けられると、ビジネスにおいても、召会においても大きく前進できました。ビジネスライフにおいても敵の攻撃を対処することは成功のために必須であり、敵を放置することは致命的な失敗であると証できます。